

## 【学習のねらい】

車いすを利用する人の立場に立って、社会の生活環境を見直すとともに、相手を気づきながら介助する方法を学ぶ。

【準備】 車いす

## 【進め方】

- (1) 車いすの取り扱いについて学ぶ。
- (2) 2人一組になり、一方が車いすに乗る人、他方が介助者になる。
- (3) 屋外や屋内を散策する。
- (4) 車いすに乗る人と介助者は15分くらいで交代する。
- (5) 散策を終えてから、感じたことや気づいたことを話し合う。

## 【留意点】

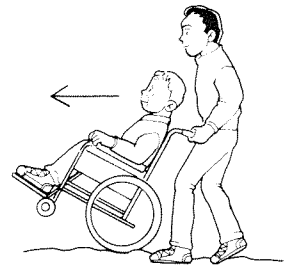
- (1) 講師の依頼、車いすの使用に関しては、各市町村社会福祉協議会に相談するとよい。
- (2) 危険をともなう場所へは行かない。
- (3) 段差や坂道以外は、自力で移動するように心掛ける。
- (4) トイレ・公衆電話・自動販売機・スロープ・段差・スーパーマーケット等に出かけてみると深まった体験ができる。
- (5) 参加者には、設備面だけでなく、気持ちの変化もまじえながら感想を出してもらおう。

## 【参加者からの発表例】

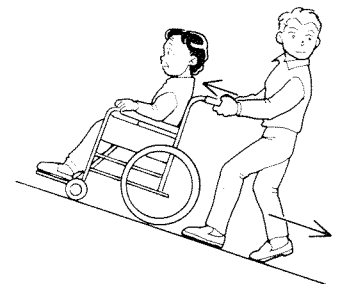
- (1) 普段何気なく思っている小さな段差もこわかった。
- (2) 緩やかなスロープも一人では、かなりの力が必要だ。
- (3) 段差は介助者一人では難しく、周りの人の援助が必要だ。
- (4) 介助する人、される人が互いに信頼し合うことが大切だ。
- (5) 車いすを利用する人の気持ちが少しだけわかったような気がした。
- (6) どうすれば危険を避けられるか、介助する人の責任を感じた。
- (7) 歩道や建物の車イス用のスペースなどが、整っていないものが多い。

## 【車いすの取り扱い方】

・でこぼこの道では



・急な下り坂では



・段差ののぼり方

